

キャンドウ

CanDo アフリカ

特定非営利活動法人アフリカ地域開発市民の会(CanDo)会報 2015年9月[第72号]



活動の方向性	教室補修における CDF との協働	永岡 宏昌
ナイロビ便り	ケニアの好況と治安	永岡 宏昌
活動報告	地域保健ユニット(CHU)活性化のためのフォローアップ —CHW の月例報告会と活動日の参与観察—	泉田 恵子
	幼稚園関係者への保健研修	松岡 由真
ひと	インターンを終えて	菊地 綾乃 安増 小絵

ケニアでの活動 2015年6月～8月

フォトレポート マシंगाの食

事務局から

写真: 地域保健ボランティア(CHW)候補選出のための村訪問後、準区助役と共に歩いて町に戻るスタッフ

教室補修における国会議員選挙区開発基金(CDF)との協働

代表理事 永岡 宏昌

ケニアでは、2003年に国会議員選挙区開発基金(CDF)制度が始まりました。これは国会議員選挙区を単位として、毎年、政府予算から地域開発のための資金を交付し、各単位で資金用途を決めていくものです。現場で見ていると、選出国会議員が住民の要請に応じて、小学校、高校での各種施設や医療施設の建設、ため池造り、市場の整備、奨学金の供与などに活用する形です。2013年に地方分権が本格的に始まることにより、地域の開発資金はCDFから地方政府に移管されるとの見方もありましたが、現在のところ、CDFが供与する形は続くと思われます。

当会が2014年4月まで活動していたムイソリ地域に比べ、マシガ島のCDFは、小学校の教室建設・補修に多く取り組んでいるようです。しかし、住民が自立的に建設し、老朽化が進んでいて、倒壊の危険がある教室も数多く残っています。マシガ島でのCDFによる教室補修を見ると、脆弱な教室基礎への対処を行わず、同様に脆弱な壁にセメントを上塗りしたり、屋根を替えたりする補修が多く、倒壊の危険が解決しているようではない補修ばかりが目につきました。

そのようなCDF支援の教室がある学校から、当会に教室補修への協力要請があった

ことをきっかけに、CDF事務局と協働について話し合いました。当会はCDF補修の欠点について説明し、補修対象校へ資金供与時に、当会スタッフ・専門家による助言を行なうことを提案し、事務局は同意しました。

当会との構造補修を先行している小学校は、教室建設のためのCDF資金が承認された後、CDFに変更申請を行ない、当会と同じ工法で補修を実施するになりました。また、CDF補修資金を獲得したある小学校では、校長は当会の説明に納得せず、危険な補修に固執する中、状況を知った教育官も介入して学校運営委員会が開催され、保護者代表が当会の説明を聞いて、助言に沿った補修の実施を決定しました。

最近、CDF資金を得た小学校で、公共事業局の監督のもと、基礎の補強に力を入れた補修を行なった事例が確認できました。当会がCDF事務局に指摘した点が、反映されたものと思われます。また、補修作業の資材量の見積りの根拠が希薄であることなどを事務局から知らされ、当会の補修マニュアルや資材量見積りを提供することになりました。これらの波及効果で、当会の事業だけでなくCDF事業を通して、子どもの安全が確保できる教室が増えていくことが期待されます。

ナイロビ便り

ケニアの好況と治安

永岡 宏昌

ナイロビでは、高級な集合住宅、大型商業施設などの建設が続いています。私は、数年以上前から、高級な建物を作り過ぎて、飽和状態になっている、と思いついていました。勘違いだったようです。

一方、在ケニア日本大使館からは、テロの脅威があるため、ケニア国内の多くの地域において、不要不急の訪問を避けるように求められています。そして、ナイロビでは、大型商業施設をはじめ、さまざまな施設での長時間滞在を避けるように、注意喚起されています。2013年9月には、ナイロビの商業施設が、組織的に襲われて、銃撃戦が展開され、多くの市民が犠牲となりました。また、今年4月にはソマリア国境に近いガリッサで大学が襲撃され、多くの学生らが犠牲になっています。その意味で、実証されている危険です。当会では、ナイロビでの日本人スタッフ、インターンの行動を注意深く規制しています。

9月8日、新たな商業施設の開業式典の前日に、小型爆発物を疑われる物*を所持している男性と関係者2人が逮捕されました。過去の惨事の再来かと心配され、政府高官や海外から来賓も出席する予定だった式典が中止になったと聞いています。また、7月下旬に、米大統領が国際会議出席のために

ナイロビを訪問した際は、治安対策のための厳重な交通規制があり、学校や会社の休業など、日常生活にも影響を与えました。

このナイロビの治安上の危険は、2011年10月から続いているケニア軍のソマリア侵攻に関係しています。侵攻により、統制していた地域を広範に失ったソマリアの武装組織が、ケニア国内において、商業施設や観光施設を含むさまざまな報復テロ攻撃を宣言し、実行に移している状況です。

この中で、ケニア政府は、ソマリア駐留を継続しつつ、ケニアの安全を主張し、海外からの投資や観光、国際会議の招致を熱心に行なっているように見えます。第6回アフリカ開発会議(TICADVI)が2016年にケニアで開催される、と発表されました。この会議は日本政府が深く関与して、アフリカ各国の首脳を招請し、1993年から5年ごとに東京や横浜で開催されてきました。次回から、3年ごとに日本とアフリカと交互で開かれることになり、アフリカ連合(AU)の調整でケニアに決まりました。武力対立の現場で、豊かな社会を築くことについて話し合うことに、違和感を覚えます。

* ネーション紙の地元警察への取材では「偽の爆発物」とのこと。

活動報告 地域保健ユニット(CHU)活性化のためのフォローアップ
—CHWの月例報告会と活動日の参与観察—

調整員 泉田 恵子

地域保健ボランティア(CHW)は、約4週間に及ぶ育成研修(理論研修+実践研修)を修了後、各村において無償の保健活動を行いません。CHW一人あたり、担当世帯として20世帯前後(村の世帯数により前後します)が割り振られます。CHWは各世帯の保健・衛生状況把握を目的とした世帯訪問を、月1度行なうことを基本とし、得た情報を記録簿につけます。また、状況に応じ、保健施設への紹介を適宜行なうこと—地域と保健施設をつなぐこと—も重要な役割として求められています。

こうして収集した情報を地域保健ユニット(CHU)全体で集めるのが「月例報告会」です。CHUの拠点として定められた保健施設の地域保健普及官(CHEW)に、CHWは記録簿を提出します。その後CHEWは集まった記録簿の情報を集計し、CHU全体の情報として県保健局へ報告を行いません。この活動は月に1度実施されています。

一方「活動日」は3か月に1度、CHWが発案し、地域住民を巻き込んで何らかの活動を行なう日です。CHEWは、地域住民の参加を促す点を主にサポートします。これまで、保健施設敷地内の草刈りや市場の清掃、地域での植樹活動準備等が行なわれました。

CHW育成研修は保健局と当会の協働ですが、月例報告会と活動日の活動の主体はCHWと、CHEWを含む保健局です。当会はCHUを活性化するため、フォローアップ活動として、2つの活動の「参与観察」を行ってきました。当会はCHWに対して、必要に応じて、保健局との間の調整、さまざまな提案を行なう等の形でサポートしています。

月例報告会と活動日に共通する課題は、参加するCHWの数が低迷していることです。そして、CHEWの関わり方です。CHEWが不在で、月例報告会にCHWが記録簿を持参するだけ、活動日もCHWが保健施設内の草刈りを行なうのみ、というケースが度々見受けられました。

CHEWがCHWの活動に参加をし、CHWとの関係作りを進めることが、当会は重要だと考えています。CHWからの疑問や相談に応じて、CHEWが直接、活動について助言を与えることが、CHWのやる気を起こし、その保健活動を継続することにつながります。この点については、保健局とも協議し、提案を行ないました。しかし、現状ではまだ課題の解決からは遠く、今後も、地域保健ユニットが活性化するように、CHWの保健活動の定着を目指して、模索を続けていく必要があると考えています。

活動報告 幼稚園関係者への保健研修

インターン 松岡 由真

CanDoはマシंगा県のマシंगा教育区とキバー教育区において、幼稚園教師への保健研修として、昨年に理論編、今年3月に実践編を実施しました。そして5月と6月、修了した教師のいる幼稚園を対象に、関係者への保健研修を行ないました。

「関係者」とは、幼稚園教師、小学校校長(幼稚園の園長も兼ねています)、幼稚園の保護者代表の三者を指します。この三者間で子供の健康や成長に関する共通の保健知識を持つことにより、互いに協力して園児の健康状態向上や衛生環境改善につながる活

動を行なってもらうことを目的としています。

研修の内容は食事の栄養バランスの大切さから始まり、子供の精神的・身体的・社会的成長や、子供の成長に関わる外部要因、また関係者間での協力関係の築き方等で構成されています。最後に参加者は成長を記録する方法について学び、当会は各幼稚園に体重計と成長記録カードを配りました。

今後幼稚園において、毎月保護者とともにも子供の成長を記録する会をもつことで、子どもの健康について考えてもらうことを期待しています。

ケニアでの活動

—2015年6~8月

■ マチャコス地方マシंगा県

◆ 小学校

◇ 保護者の学校運営能力向上と施設拡充—
教室建設・構造補修・土留め壁建設

・4準区で保護者への研修と作業を実施。

◇ 保護者による環境活動

・2校でサック菜園と野菜の苗床作りの研修を行ないました。

◇ 教員へのエイズ教育研修

・マシंगा教育区とキバー教育区で、エイズ教育研修第3課程(高学年でのライフスキルとエイズ教育)を実施(2日間)。

◆ 幼稚園

◇ 関係者への保健研修

・キバー教育区で実施。体重計を供与し、成長記録カードを配布しました。

◇ 保護者による保健活動

・対象候補の幼稚園6園を選定し、訪問。

◆ 地域

◇ 地域保健ボランティア(CHW)育成

・エカラカラ準区でCHW候補者に研修—第1週、第3週は講義を実施、第2週は担当世帯の情報収集。

・イーア二準区でエイズ研修(3日間)。

お詫びと訂正 会報71号—2015年1~5月

◆ 幼稚園

◇ 教師への保健・エイズ研修

・キバー、マシंगा教育区で実践編を実施。

◇ 関係者への保健研修

・マシंगा教育区で実施。

ひと インターンを終えて

独特の理念を実践に落とし込むことで事業ができていく過程を見ました

菊地 綾乃

—2015年3月～8月、地域保健を担当—
ケニアの活動地にいた毎日にはあわただしく、しかも永遠に続くとも思われる時間でした。毎日のように何か起きるので、心休まる時がなかったのですが、そのような一つ一つのことを、現地調整員や現地スタッフ等と共に知恵を出し合いながら対処していく中で、多くのことを学ばせていただいたと思っています。例えば、私がアイデアに煮詰まっていると、現地スタッフが、自らの経験を基に多様な意見を出してくれました。視点が凝り

固まっていた私に、広い視点から柔軟に見ることの大切さを教えてくれたように思いました。

CanDoには独特の理念の持ち、この理念に沿って事業を進めるという一致した姿勢をスタッフの方から感じることができました。また、理念を実践に落とし込むことで、CanDoらしい事業ができていく過程を拝見させていただき、勉強になりました。今後、こうした一貫した姿勢を持って国際協力分野に関われるよう、私も精進したいと思っています。

「金銭的な支援でなく、助け合いが重要」は伝わっているのだろうか

安増 小絵

私は2015年3月から6か月間地域保健を担当し、主に事業対象地となっている各村から地域保健ボランティア(CHW)研修の対象者を選出するために村訪問を行ないました。

村訪問でCanDoからの金銭的な援助について村人から聞かれるたびに、支援慣れしてしまっていることの恐ろしさと、支援のあり方について考えさせられました。それと同時に、村人に私たちが訪問し伝えようとしている、「活動の継続には、CanDoが金銭的支援を行なうのではなく、村の人たちの間で

の助け合いが重要だと考えていること」は、本当に伝わっているのだろうか。もしそれが伝わっていたとしても、この活動は本当に5年後もその先も、研修を修了したCHWを中心に続いていくのだろうか、と不安にも思いました。そんな中で私に出来ることを考え、自分なりに伝え方を工夫しながら取り組みました。この6か月感じたことも、今反省していることも、私の将来の糧となっていくのだと思います。地域開発の難しさとその面白さを同時に感じた半年間でした。

フォト・レポート

マシंगाの食



バス停近くで売られていたアップルマンゴー



週に一度の町の市場で売られていた野菜



枝を刈り取って、収穫されたキマメ(pigeon pea)。さやから豆を外した後、風選



村の雑貨屋兼お茶屋でのランチ。チャパティ、アボカド、ミルク紅茶で30シリング(40円)



マシंगा湖でとれた魚を素揚げして、トマト煮。白トウモロコシ(メイズ)の粉で作るウガリと

事務局から

報告

◇組織

○7月24日、国際協力 NGO センター (JANIC)によるアカウンタビリティ・セルフチェック2012を実施しました。

○7月26日、2015年度第2回理事会を開催。2015年度前半の活動報告・後半の活動計画、会計状況(1月～5月)報告、中長期事業計画(2011年～18年)の2015年前半までの実施結果と2017年度までの中期計画を確認。

◇国内活動

○6月24日、7月1日、7月8日、CanDo 勉強会2015・東京の第4～6回を開催。

人の動き

* 派遣・出張先はケニア

○6月6日、調整員 泉田恵子が一時帰国、7月4日、再派遣。

○8月3日、代表理事(兼 事業責任者)永岡宏昌が出張。

○8月17日、本田敏一(ほんだ としかず)、8月31日、吉澤宗真(よしざわ かずま)をインターンとして派遣。

○8月26日、インターン 菊地綾乃が研修期間を終了して帰国。

○9月4日、インターン 安増小絵が研修期間を終了してケニアを出国。

お知らせ

■10月3日(土)・4日(日)

グローバルフェスタ JAPAN 2015 に出展

1990年に始まった、この国際協力イベントに、CanDo は、1999年から参加しています。今年も、活動を紹介するパネルを展示し、カンバの女性が作るサイザル製のバッグなどを販売します。ぜひ、お越しください。

・時間: 10:00～17:00

・会場: 東京・お台場センタープロムナード
(シンボルプロムナード公園内)

* 日比谷公園ではないので、ご注意ください。

・最寄り駅:

りんかい線・東京テレポート(1分)

ゆりかもめ・お台場海浜公園(7分)

ゆりかもめ・青梅(3分)

・ブースの位置:

グリーン・エリア(保健医療)32

・ウェブサイト: <http://gfjapan2015.jp/>

■次号は、2015年12月に発行の予定です。

CanDo アフリカ [第72号]

2015年9月29日発行

発行人: 永岡宏昌

編集人: 佐久間典子

発行: 特定非営利活動法人アフリカ地域開発市民の会 (CanDo)
〒110-0001 東京都台東区谷中 2-9-14 第2森川ビル B号室

電話/FAX: 03-3822-1041

電子メール: tokyo@cando.or.jp

ウェブサイト: <http://www.cando.or.jp/>

郵便振替: 口座番号 00150-2-15129 加入者名 アフリカ地域開発市民の会